

令和元年度 学力向上に向けた検証改善シート

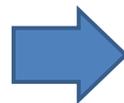
尾道市立

長江

小学校

1 課題

・基礎学力(漢字、四則計算等)の定着に個人差がある。
 ・思考力・表現力の伸びに個人差がある。
 ・目的に応じて複数の情報から必要な情報を取り出し、それらを関係付けることが十分でない。



2 めざす姿

自ら考え、課題を解決する子
 ・習得した知識を活用し、粘り強く学び続ける。
 ・学びのすべを使い、かかわり合って(協働して)解決する。

3 めざす姿に向けた取組の具体

1学期の取組

検証

・自ら課題を発見し、主体的、協働的に問題解決する授業作りを工夫する。
 ・協働的な探究プロセスを取り入れた授業を、特定の教科にかかわらず実施する。
 ・「学びのすべ」を獲得・活用し、思考したり表現したりすることができるよう、日常的に指導する。
 ・チャレンジタイムや個別指導の充実を図る。

・算数科における学期末テスト
 正答率: 87%
 ・国語科・算数科・社会科・理科の「思考力・表現力をみる問題」の正答率: 75%
 ・課題発見・解決学習に関する肯定的回答: 93%

2学期の取組

検証

・「全国学力・学習状況調査」の結果分析をもとに課題となった点を重点的に指導する。
 ・自ら課題を発見し、主体的、協働的に問題解決する授業作りを工夫する。
 ・協働的な探究プロセスを取り入れた授業を、どの教科・領域でも実施する。
 ・「学びのすべ」の汎用性を高めることができるよう、どの教科・領域でも日常的に指導する。
 ・チャレンジタイムや個別指導の徹底充実を図る。

・質問紙調査を実施する。
 ・取組の成果を検証する。(単元末テスト・学期末テスト、思考力・表現力テスト)
 ・校内授業研究を行い、検証する。
 ・各学年の取組を交流し、進捗状況を確認する。

3学期の取組

検証

・「標準学力定着実態調査」の結果分析をもとに課題となった点を重点的に指導する。
 ・自ら課題を発見し、主体的、協働的に問題解決する授業作りを工夫する。
 ・協働的な探究プロセスを取り入れた授業を、どの教科・領域でも実施する。
 ・「学びのすべ」の汎用性を高めることができるよう、どの教科・領域でも日常的に指導する。
 ・チャレンジタイムや個別指導の徹底充実を図る。

・質問紙調査を実施する。
 ・取組の成果を検証する。(単元末テスト・学年末テスト、思考力・表現力テスト、全国学力テスト過去問題等)
 ・校内授業研究を行い、検証する。
 ・各学年の取組を交流し、進捗状況を確認する。

4 取組の結果

1年生(12月)

教科	国語(基礎)	国語(活用)	算数(基礎)	算数(活用)
目標値 (対全国比%)	105	105	105	105
結果 (対全国比%)				

2年生(12月)

教科	国語(基礎)	国語(活用)	算数(基礎)	算数(活用)
目標値 (対全国比%)	105	105	105	105
結果 (対全国比%)				

3年生(12月)

教科	国語(基礎)	国語(活用)	算数(基礎)	算数(活用)
目標値 (対全国比%)	105	105	110	105
結果 (対全国比%)				

4年生(12月)

教科	国語(基礎)	国語(活用)	算数(基礎)	算数(活用)	理科(基礎)	理科(活用)	社会(基礎)	社会(活用)
目標値 (対全国比%)	105	110	105	105	105	105	105	105
結果 (対全国比%)								

「尾道版『学びの変革』」推進事業 質問紙

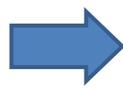
肯定的評価(%)	6・7月		12月
	【児童】学習の振り返りをするときには、「どこまで分かったか」、「学習の方法でうまくいったことや失敗したことなどの理由」を考えています。	4年	100
5年		96	
6年		89	
全体		95	
【教師】考えるような指導を工夫した。	100		
【児童】学習の振り返りをするときには、「もっと考えてみたいこと」、「もっと調べてみたいこと」、「もっと工夫してみたいこと」などを考えています。	4年	96	
	5年	93	
	6年	83	
	全体	91	
【教師】考えるような指導を工夫した。	80		

市学力調査

全国学力調査

6年生 全国学力・学習状況調査(4月)

教科	国語	算数
目標値 (対県比%)	105	105
結果 (対県比%)	118	118



6年生 検証(12月)

教科	国語	算数
目標値 (対県比%)	110	110
取組の結果 (対県比%)		

5年生 プレテスト(2月)

教科	国語	算数
目標値 (対県比%)	100	100
結果 (対県比%)		